

# 大門坂

2月臨時号 月田小学校だより

平成31年1月30日(水) 校長 小林幸雄

## 抜き打ちの避難訓練

日本列島は、緑豊かで自然に恵まれた美しい国です。しかし、8年前の東日本大地震、2年前の熊本地震、昨年6月の大阪府北部地震、7月には西日本豪雨など…。

日本は昔から常に地震、台風、川の氾濫など厳しい自然災害に見舞われ続けてきました。

だからこそ、日本の人々は、昔から互いに助け合い仲良く暮らしてきたのです。と同時に、どれほど大きな被害や痛手を受けても、必ず立ち直るという力強さも育んできました。

1月17日、子どもたちには、一切事前の通知なしで、地震による避難訓練を行いました。

2校時目が終わり20分休みに入ると、多くの子どもたちが運動場に走り出て遊び始めます。外に出て5分たった頃でしょうか。いきなり緊急地震速報が鳴ります。その直後、地震音が放送で流されます。

運動場を見ると、自主的に子どもたちが運動場の中央に集まり、身を伏せようとしているではありませんか。また、低学年教室に目を向けると、子どもたちは直ぐに、机の下に潜り込んでいます。

日頃の訓練の成果でしょう。多くの子が咄嗟に身を守ろうとする行動をとることが出来ました。



＜避難訓練の企画・進行を務める福田伸子先生＞

さて、この時、以下のようなことを子どもたちに話しました。

その昔、福田先生が、まだ保育園に通っていたころのことです。ちょうど24年前の今朝、5時46分、夜明け前の真っ暗闇の中。突然、大きな地震が発生しました。阪神・淡路大震災です。



＜三択に挙手する子どもたち＞

今でも校長先生は覚えています。その時、突き上げるような地鳴りに布団をかぶったまま揺れが収まるまで全く動けなかったこと。天井まで届こうかという本棚が、今にも倒れてくるのではないかという恐怖を感じたからです。

最も被害の大きかったのは、お隣の県・兵庫県の神戸市です。神戸は、大都会です。

この地震で6000人を超える方がなくなりました。そのうち70%以上の方が亡くなった原因があります。その原因は何だったのでしょか。

次の三択で予想させました。

- ①火事…(20名弱の子が手をあげます)
  - ②津波…(5～6名 〃 )
  - ③押しつぶされた(圧死)…(24～25名 〃 )
- 正解は、③「圧死」です。

神戸の街には、多くの大学があります。まだ夜明け前、みんなはまだ寝ていた時刻です。学生さんの多くが、住んでいた家やアパートが地震で押しつぶされ、多くの若者がなくなってしまったのです。8年前の東日本大震災では、1万5千人以

上の方が津波で亡くなっています。96年前の関東大震災では、10万人の人が亡くなっています。多くの方が、地震が発生した後の火事で焼け死んだのです。

このように、同じ地震でも被害が異なるのです。

阪神・淡路大震災が起きた時、大勢の人々が、ボランティアとして困った人々の応援にかけつけました。その為、阪神淡路大震災が起きた年を、ボランティア元年とも言われています。-----

禍は忘れた頃にやってくるといわれます。

長い歴史の中で今を捉え、日本人の宿命として、危機意識を常に持つておかなければならないと思います。

## 百人一首大会&縄跳び集会

平成25年度から月田奨学会より新入生に対し、「五色百人一首」がプレゼントされています。ちょうど今の6年生が入学した時からです。こんな有り難い環境は、他の学校ではあり得ません。

本校の特色の一つであり、地域に支えられているという証でもあります。



このような下地もあって、百人一首への取り組みが年々盛んになっています。



1月26日(土)の学校公開では、2校時目に全校生徒による百人一首大会がありました。普段ならば、二人が向き合って源平合戦で行うのですが、体育館に一堂に介しての大会です。五色に色

分けされた札を100枚床に並べ、3~4名で競い合いました。上の句を読み始めた途端、「はい!」と札を取る声が次々とあがってきます。その速さに保護者や地域の方は、目を丸くされていました。



3時間目は、縄跳び集会でした。

低学年も高学年にひけをとらないほどのチームワークで連続大縄跳びに挑戦していました。テンポ良く大縄をくぐり抜けるスピードは、大人には追いつけない速さでありました。日頃の練習の成果が、どの学年も十分表れていました。

## 眠育の取組が最優秀に!

平成30年度教育研究論文(日本教育公務員弘済会岡山支部主催)の学校部門で、本校の「眠育の取組」が高く評価され、最優秀を受賞しました。

論文の応募〆切りが9月下旬、眠育に着手したばかりの段階でした。それ故、研究としては未完の内容ではありますが、「眠育の推進」という新しい着眼点を評価していただいたものと思っています。

その論文は、冊子にまとめられ、県下の小中高等学校等に広く配布される予定です。また、県代表として、「日教弘教育賞(全国)」にも推薦されることに決定しました。

論文には、昨年の7月、保健委員会による「眠育の集会」の様子も挿入されています。主人公ツキタくんのユーモアある寸劇です。

なお、受賞式後の祝賀会では、元県教育長から、「この特色ある学校づくりをぜひ引き続き推進していただきたい」と力強い激励も頂戴しました。

また、来年度8月には、第66回県学校保健研究大会において、真庭市教委の推薦により、本校の「眠育の取組」を発表することになっています。